Ｒ６ 年度　学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	芸術・音楽Ⅰ（４学科共通）	単位数	2	担当者	小出

１、教科書・副教材

ＭＯＵＳＡ１（教育芸術社）

２、科目の目標

歌唱、器楽、鑑賞等の幅広い活動を通して、我が国及び諸外国の様々な音楽に触れ、感性を働かせ、音や音楽を形作っている要素を捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景とを関連付けることで、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。このことで音楽文化を継承・発展、創造することにつなげ、音楽を愛好し豊かな人間性や社会性を養う。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	■歌唱表現 ・校歌 ・歌唱　小さな空 ■合唱 ■器楽表現 ・ギター(コード) ■鑑賞 ■器楽表現	■歌唱表現 ・豊かな発声や表現の工夫 ・歌詞や楽曲の分析を通して、歌うことの楽しさや感動を味わう ■合唱を通して協調性を養い、共に歌う喜びを味わう ■コードの仕組みを理解し、コードネームを見て演奏ができるようになる。 ■ミュージカル鑑賞を通して、作品の持つ背景や特徴、魅力を学習し、より深く作品の鑑賞が出来るようにする ■ヴァイオリンの演奏体験を通して、新たな視点で音楽を味わう	35	■実技試験(歌唱) ■実技試験(ギター)
後期	10 月 11 月 12 月 １月 ２月 ３月	■創作 ■鑑賞 ■演奏発表	■創作を通して楽譜の書き方や、音楽のルールを学習する。また、想像を膨らませ、創造につながるきっかけを学習する。 ■西洋音楽史に残る作曲家たちの音楽を鑑賞し、その時代の音楽に親しむ。また、グループでの調べもの学習及び発表をする ■１年間学習したことのまとめとして、演奏を発表し、学習の定着を図る	35	■筆記試験(西洋音楽史、楽典) ■実技試験(演奏発表)

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	評価方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりについて理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけようとしている。	・歌唱テスト ・実技テスト・筆記テスト
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴くことができるようにしている。	・歌唱テストや器楽実技テストについての自己評価・感想 ・楽曲についてのグループ学習 ・鑑賞記録 、感想記録
主体的に学習に取り組む態度	音楽や音楽文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞や創作活動に取り組もうとしている。	・合唱や器楽アンサンブルでの意欲や対話的活動 ・実技への取り組みと実技テスト ・創作活動や音楽表現への積極的な取り組み

５、学習にあたっての注意とアドバイス

○「歌唱」に関しては、表現に関わる知識や技能を身につけ、個性豊かに創意工夫していこう。上手下手でなく積極的なチャレンジをしよう。クラシックからポップスの曲まで、様々な曲種独特の発声や表現形態を知ろう。合唱や合奏は、文字通り「アンサンブル＝他者との調和」が大切です。音色や演奏法に関わりを楽しみ、音によるコミュニケーションを楽しもう。

○「鑑賞」に関しては、音楽的特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりを感じながら、それぞれの音楽の良さや素晴らしさを味わおう。

○「器楽」に関しては、奏法やその楽器の持つ音色、表現方法など様々な視点から音楽を演奏できるように、丁寧に取り組みましょう。

○「創作」に関しては、音楽を形づくっているものを知覚し、それらが作品の中でどの様な役割をしているか感受することが音楽のより深い楽しみにつながると思います。知覚したことと、感受したこととのかかわりを考えながら学習しましょう。

Ｒ６　年度　学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	芸術・美術Ⅰ（４学科共通）	単位数	2	担当者	宮下

１、教科書・副教材

高校の美術　１　（日本文教出版）

２、科目の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

３、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	４月 ５月 ６月 ７月 ８月 ９月	○オリエンテーション 年間スケジュールについて 脳と視覚について ○鉛筆デッサン エスキース デッサン「コップを持つ手」 ○鑑賞 ○立体表現 空間のデザイン 「モビール」 アイデアスケッチ 素材研究　・制作計画 制作	・デッサンの基本習得 ・ものの見方、表し方と立体（空間）・質・量感などの感じ方を身に付ける。 ・じっくりと取り組む姿勢を育てる。 ・美術文化への関心を深める ・空間と動きのデザイン ・機能美と立体把握能力、主題の生成力を養う。 ・素材研究、用具の扱いや活用、豊かな発想の力を育てる。 ・計画的に制作に取り組む力を養う。	３５	
後期	10 月 11 月 12 月 １月 ２月 ３月	○平面表現 ○デザイン　「文化祭ポスター」 パネル制作 アイデアスケッチ 制作 発表　講評会	・空間と豊かな生活 ・デザインの基本習得 ・色彩学・平面構成・デザイン技能の確認。向上 ・視覚伝達デザイン ・目的・視覚効果・色彩などの理解を深め個性的に発想し、計画的に制作できる力を養う。 ・デザイン制作技能の向上 ・プレゼンテーション能力の育成	３５	

４、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	制作の様子　作品　プリント　等
思考・判断・表現	造形的なよさや表現について考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	制作の様子　作品　プリント　授業中の取り組み　等
主体的に学習に取り組む態度	美術や美術文化と豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。	出席状況　提出物　準備　制作の様子　等

５、学習にあたっての注意とアドバイス

美術的な知識や技能の習得・向上には、調べたり、準備したり、工夫しようとする力が必要です。追究心を持って取り組みましょう。出席状況や特に作品の提出期限には気をつけましょう。